


③社会資源活用

- * 社会資源を知る
- * 他機関連携を図る
- * 抱え込まない支援



研修生②
特定非営利活動法人ICDSキャリア・デザイン・
サポーターズ

アウトリーチ実地研修 研修内容と学んだこと

うどん県 

香川県高松市西の丸町
かがわ若者サポートステーション
株式会社 穴吹カレッジサービス

実地研修先

特定非営利活動法人ICDSキャリア・デザイン・サポーターズ 岐阜県若者サポートステーション

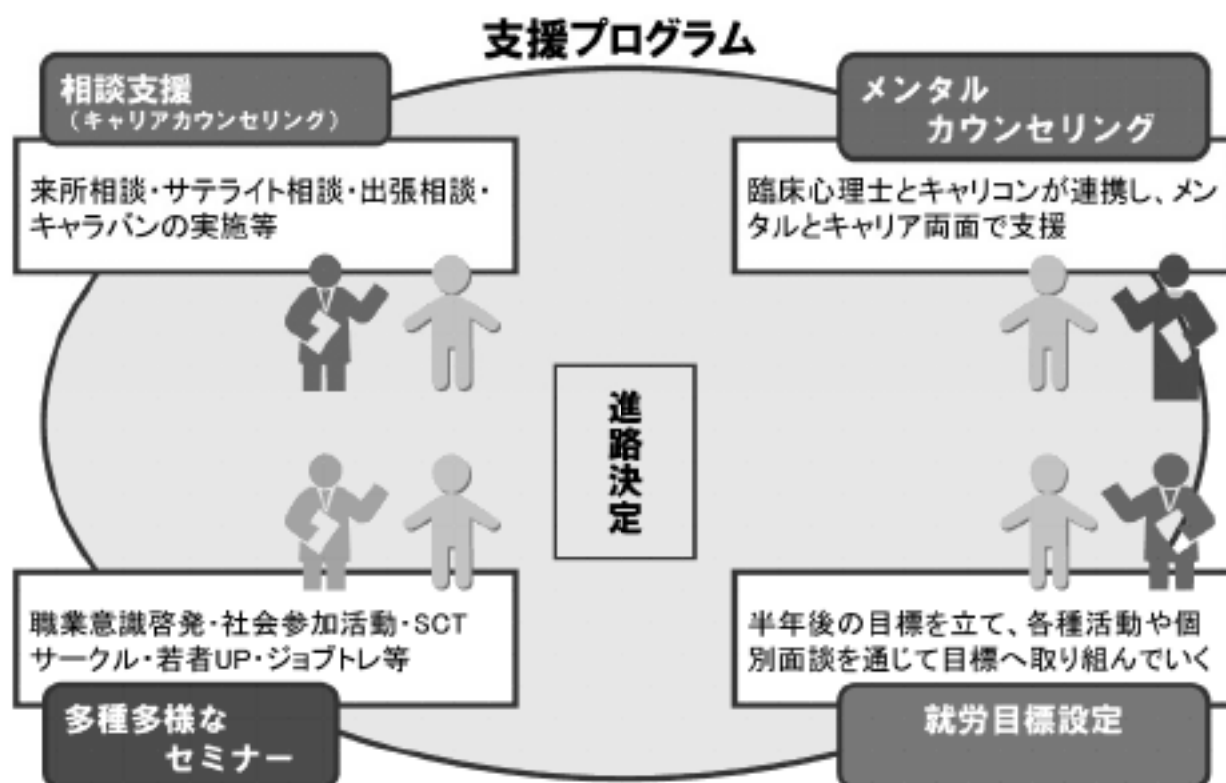
研修先概要

内容:無業状態の若者の職業的自立(進学や復学等を含む)に向けて支援をおこなう。

対象:15才~39才の就労を目指す若者及びその家族

住所:岐阜県岐阜市藪田南5-14-12
岐阜県シンクタンク庁舎2F

開所:月・水・木/9:30~18:30 火・金/9:30~21:00
第1土/10:00~16:00



研修内容

若者の職業的自立支援に係る座学・実技・訪問によるスキルアップを目的とする。

- ・ **概要(1)** メンタルヘルス、キャリア教育支援コンテンツ、STCサークル企画等の座学を通じて、支援プログラムの組み立てを知る。
- ・ **概要(2)** SCTサークル、若者親睦会、マナー研修、保護者勉強会等のセミナーを通じて若者理解と支援者の役割を確認する。
- ・ **概要(3)** 高校訪問同行・面談陪席を通して、具体的なカウンセリングの流れを知る。
- ・ **概要(4)** ロープレや実践(実際にセミナー等を進行する)を通じて、若者の反応や工夫・重要点等を理解する。

研修内容

概要(1) 座学の要点

メンタルヘルス

- ・Dr.の言う簡単な作業と実際の仕事内容は異なる。
- ・自己一致や不応を考慮し支援を検討する。
- ・発達障害及び代表的な精神障害の知識。
- ・精神病と精神障害の概要と新しい名称。
- ・メンタルセミナー見学
 - ＊ストレスとは何か
 - ＊行動の意味やコーピング
 - ＊表情筋ワーク等

キャリア教育

- ・ライフイベントコストゲームの使用方法和目的。
- ・ゲームを通じて、お金とライフプランを考える。
- ・学校でのセミナー開催でも実施すると盛り上がる。
- ・OHBYカード等、わかりやすい言葉や写真で職業を知ること効果的である。
- ・その他、オリジナルのライフイベントコストゲームの実践方法等。

サークル企画

- ・STCサークル(ソーシャルコミュニケーショントレーニング)の企画と運営ポイント。
 - ＊全員が発言できる内容
 - ＊定期的なタイミングを考慮
 - ＊発言できない者への対応
- ・具体的な実践内容
 - ＊テーマに合ったイメージや発想を出す練習
 - ＊俳句を利用した目標設定
 - ＊数字での思考練習とコミュニケーション
- ・進行や発表等の役割分担は若者同士で決める。

研修内容

概要(2) セミナーの要点

若者親睦会等

- ・エコキャップ活動や献血の街頭呼び込み等、ボランティア活動を通し、誰かの役に立つ喜びをえる。
- ・今後のセミナーを利用者が考える。
 - *いつ、どんな内容
 - *過去の事例も考慮
- ・全体的に準備や進行も利用者が自ら行えるようにしている。そこで自分の役割も感じていると思われる。

マナー研修

- ・継続的な中の最終段階での電話でのマナー
 - *言葉の使い方
 - *クレームの種類
 - *クレーム処理のロープレ
- 一般的なマナーセミナーは礼儀・作法が多く、電話も話し方や不在時程度が中心。研修先で実施のクレーム対応など、かなり先を見越したセミナーの必要性も感じた。

保護者勉強会

- ・登録保護者、一般保護者3~5名のテーブルに利用者が1~2名ローテーションではいる。
- ・保護者側からは子どもの状況、利用者は経験談やどう感じるか等率直に意見交換をしていた。
- ・スタッフは、進行を保護者や利用者任せ、時間配分を中心に対応。スムーズさに驚きを感じた。

研修内容

概要(3) セミナーの要点

高校訪問同行

- ・臨床心理士とキャリアコンサルタントで訪問。
 - *アイスブレイク
 - *本人の状況
 - *本人の意向
 - *アドバイス等
- ・様々な情報を知る必要性を再認識した。
例*通信制高校の方針、授業料や担当者の様子等
- ・これから何をするかわからないというケースは来所時と同様に対応。

面談陪席

- 新規の保護者の相談
- ・本人の状況、親の考え等を傾聴。
- ・親自身も不安や苛立ちが多いため、それらの解消する事も重要。
- ・本人の状況はあくまで親の見方であるという認識。
- ・親の行動から改善を求める場合は次回までに〇〇と具体的に伝える。

面談での注意点

- ・家庭訪問がある場合は、本人承諾を得ているかは必ず確認と再認識。
- ・親の見方と子の実際は当然ながら違うケースもよくある。
- ・教育機関、保健福祉機関精神科、メンタルクリニック等の特徴や担当者の様子も事前に認識しておく相談しやすい。だが、困難さも多々ある。

研修内容

概要(4) ロープレや実践

相談ロープレ

- ・クライアントと支援者を交代しながらロープレ。
- ・少ない情報でどう進めて引き出すかが重要。
- ・様々な困難事例や対象者を想定し再三ロープレを行うことで傾聴や問いかけ等のスキルアップに役立つ。

セミナー実践

- ・同じ環境のスタッフと全く異なる環境の支援員からセミナー企画を相談することは新しい発見も多々ある。
- ・地域性や利用者特性、時期的な内容はもちろん、研修先では毎日定刻から日替わりでセミナーをしているのは目的のある居場所作りの場として重要。

その他

- ・家庭訪問がある場合は、本人承諾を得ているかは必ず確認と再認識。
- ・親の見方と子の実際は当然ながら違うケースもよくある。
- ・教育機関、保健福祉機関精神科、メンタルクリニック等の特徴や担当者の様子も事前に認識しておくとうまく相談しやすい。だが、困難さも多々ある。

研修を通じて

クライアントが利用しやすい工夫 キャリア面のスキルアップの工夫

- ・クライアントのメンタル面も含めた細かな情報収集とそのためのスタッフのスキルアップのさらなる必要性。
- ・クライアントが毎日でも通える工夫。生活リズムをつけるための工夫。
- ・クライアント自身が準備し、記録(内容→反省→次回目標)をその都度書くことで考え、意識づける必要性。
- ・動けないクライアントはボランティアで役割があるという喜びを感じるものから就職活動中の場合は行動を止まらないようにするための支援の工夫。

以上を考慮し自団体及び連携しているネットワークと共に取り入れ進めていきたい。